

第三者評価結果

事業所名：社会福祉法人 正道会 登戸ピノキオ保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>【法人独自の基本的な考えのもと地域の特性を踏まえ全体計画を作成している】</p> <p>法人の定める【SEIDOKAI ROAD】をもとに園長が正道会関東支部の園長と共有している。保育テーマを年間4期に分け毎月各テーマごとに園内研修を行い保育を深めている為、的確に次への課題を上げ改善につなげているところは評価される。現在、各園が現場の声をボトムUPし実際に動かしているミドルリーダー層たちが子どもの姿やチーム保育の進め方等、現場の目線の全体計画を作成している。この計画が実際に保育に反映されることを期待する。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【園内が明るく落ち着いた空間となっている。空間をゾーンで仕切り遊びや生活を豊かにしている】</p> <p>各クラスは衝立や棚を使い発達や目的に沿った玩具や道具がゾーンごとに置いてある。子どもが選んだおもちゃで遊べる落ち着いた空間になっている。ランチや午睡の時間は始まりと終わりの時間はあるが、意思決定は子ども自身に任せるなど活動が途切れず心地よく過ごせる環境がある。室内の換気や湿度・温度や衛生管理は保育ソフトで管理され、手洗い場やトイレ掃除は担当者以外でも臨機応変に行っている為整理整頓され清潔感があふれる環境になっている。</p>	
<p>子どもの</p> <p>【A3】 A-1-(2)-②</p> <p>一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【一人ひとりの特徴を捉えその子の思いや願いに寄り添っている】</p> <p>面談シート・連絡帳・個別食材チェックシートで家庭の様子や子どもの様子(アレルギー)(持病)を把握している。0,1歳児の面談では園長や主任も参加している。毎年保育テーマがあり(今年度は対話と報撰)を4期に分け(1期:聴く2期:伝える:3期理解し合う:4期響き合う)それを月ごとの目標、個人の目標に設定して。家庭と園の子育てを共有するための配慮が充実している。職員やパートの先生方は個々の情報が共有されたうえで、役割分担を決め仕事をしている。臨機応変にどの役割でも柔軟な対応をしているため子ども一人ひとりに配慮が行き届いている点が評価される。</p>	
<p>【A4】 A-1-(2)-③</p> <p>子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【子どもが整理しやすいような環境設定になっている】</p> <p>衣類フックや棚は子どもの高さになっており、子ども自身がやってみたい気持ちを持つ配慮がされている。保育者が衣服のたたみ方を実際にやってみたり、イラストを貼り見てわかるよう配慮が必要な子もすわかりやすい環境になっている。保育士だけではなく看護師も参画し「からこるタイム」という時間には子どもたちの体に必要な情報や日常身に付けてほしい習慣を話している。この取り組みは子どもたちの生活習慣がより高められ自立を育むものになっている点が評価される。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>【遊び心が芽生える環境づくりは子どもの姿から取り入れている】</p> <p>園庭には築山や泥んこのダイナミックな遊びができ、地域の公園に足を延ばし四季の折々の草花や昆虫とふれあい、雨の日の外遊びも積極的に行っている。子どもが主体性をもって遊んでいる姿を写真に撮りドキュメンテーション(活動記録)を作り子ども同士も遊びの共有をしている。おもちゃや絵本、廃材の入れ替えは子どもの遊びのタイミングでリーダーが中心に入れ替えているが、他の職員も参加することでスピード感や量や素材等更に工夫ができるのではないかと。</p>	
<p>A-1-(2)-⑤</p> <p>【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a

<コメント>

【0歳児保育は家庭との連携や職員連携により丁寧な環境が作られている】

入園前に面談し家庭での様子、病気や発達などの面や離乳食の進め方など丁寧に聞き取り、入所後は家庭での進め方を引き継ぎながら園の生活に慣れていく工夫をしている。保育室は明るく落ち着いた雰囲気があり、月齢差により小さなグループや1対1で過ごせる空間を用意している。保育者の姿勢は子どもの表情や視線の先を見据えて応答的に関わろうとする姿が見られ、一人ひとりに合わせた対応を行っている。その為子どもは落ち着いて過ごしている姿がある点が評価される。

A-1-(2)-⑥
【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

b

<コメント>

【異年齢保育やチーム保育を行い一人ひとりの生活や遊びを保証している】

異年齢齢で過ごしている為、周りの子を見てやってみようという意欲が見られる。できないときは子ども自ら保育者に求める力も育っている。年齢や発達だけで判断せず子どもの興味関心に寄り添い共感し楽しめない場合は、保育者が他の遊びに誘う姿も見られ、子どもの達成感や満足度を高める支援を行っている。発達のスピードが速いため今後もキラっぽチェックシート(保育士の姿やかかわり方、ゾーン変更、おもちゃ等の設定等)を上手く活用していくことを期待している。

ch-
A-1-(2)-⑦
【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

【子どもの主体性や成長を尊重した保育が進められている】

3.4.5歳は同じフロアで過ごしている為、日頃の生活習慣が身につくようになってきている。朝の会では必要な予定を知らせその上でその日子どもが遊びたいことを決めている。子どもに寄り添う柔軟な保育が意欲や探求心、発展性のある遊びにつながっている。5歳児はサークルタイムという会議があり、聞く力、自分の考えを伝える力、共同性を育む時間になっている点が評価される。隔週の水曜日は専科のリトミック(ピアノシモ)と体操を行い健やかな心身の発達を育む教育活動も行い日常にメリハリをつけている。

【A9】 A-1-(2)-⑧
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

【障害を持っている子も持っていない子も一緒に過ごし子ども同士の関わりを大切にしている】個別支援計画を立て子ども支援と保護者支援を共に行っている。職員間では週1回の会議を行い細かなことを伝えあっている。基本は障害の子ととらえるのではなくその子のすべてをとらえ必要な支援を行っている。子どもの状況により送迎時の受け渡し等保育室で行うことや家庭や療育通所の方はその様子も聞き、子どもを共通理解するようにしている。実際に療育センターや発達支援施設に出向き情報交換を行い子ども理解を深めている。

【A10】 A-1-(2)-⑨
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

b

<コメント>

【日中とは異なるゆったりと過ごす時間を保証している】

早朝、延長時間は、0歳児から5歳児まで過ごし日中とは違う異年齢保育(たて割り)で過ごしている。保育者は家庭で過ごすような雰囲気を作り1日の保育にメリハリを持たせている。引継ぎは、引き継ぎ表と口頭で様子を伝えている。延長保育に提供するおやつは家庭の夕食に影響しないよう、また夕食は家庭でゆっくり食べてほしいという思いがありせんべいやビスケット類を提供している。しかし少しずつ子どもの延長時間が延びる子がある為、おやつの内容についてすでに検討が進んでいる。子どもへの早い対応を期待する。

A-1-(2)-⑩
【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

b

<コメント>

【多様な状況を踏まえその中でできることから進めている】

ここ数年コロナ感染や感染症などで5歳児の実際の交流活動がほとんどできない状態にあり試行錯誤している様子が伺えた。今後、地域の幼保連携会議などで柔軟な交流の仕方を検討されることを期待したい。5歳児の保護者面談は2回あり進級時と進学控えた時期に行い、子どもの様子を丁寧に伝え保護者の不安を受け止め進学についてのアドバイスをしている。指導要録作成は、担任の負担を減らすために幼児担当者や園の職員でサポートする体制があり5歳児の担任は集中して作業ができてきている点が良い。

A-1-(3) 健康管理

第三者評価結果

【A12】 A-1-(3)-①
子どもの健康管理を適切に行っている。

a

<コメント>

【安全対策の体制があり保護者の伝達もスピーディーで防止対策にも努めている】
 健康状態は登園時の視診と検温、連絡帳を確認しながら家庭の様子を聞いている。正確に引継ぎ表に記入し職員間で共有している。体調管理や怪我については、看護師とリーダーが確認し保護者に連絡帳で伝える、必要に応じ子どもの写真も添付し情報を共有している。怪我の場合保護者に確認を取り看護師が付き添い受診をしている。結果を保護者に連絡しお迎え時に詳しく伝えている。事故報告書を作成し再発防止に努めている。乳幼児の感染症や病気の情報はほけん便りや掲示板で保護者知らせている。

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
--	---

<コメント>
【看護師が医師のサポートを行い、健診の内容をわかりやすく子どもに指導をしている】
 内科検診は、0.1歳児は年に5回。2、3歳児と4.5歳児は年3回行っている。歯科検診は全学年6月に1回行っている。幼児クラスは看護師による歯磨き指導を行っている。看護師を中心に「からころタイム」の中で絵本や小物を使い健康の話をしている。現在は健診結果は再検査や処置などが必要な園児の家庭にお知らせし、健康な園児の家庭にはお知らせしていなかった。今後は健診結果は全家庭にお知らせをしていくように配慮していく。

【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>
【マニュアルがあり保護者との連携を取り子どもへの対応や安全に配慮している】
 アレルギー疾患のある子どもに関して保護者に「除去食申請書」「除去食申請に対する主治医の意見書」もらい川崎市健康管理委員会に届けている。個々の除去食や代替食を提供している。代替食用の献立を作り保護者に配布している。アレルギー時は別テーブルを置き、名前のついたトレーに除去食の品名を書いたカードを置き、エプロン、ふきんも別にしてしている。そこに個別に保育士が付き誤食を防いでいる。他の子どもにはアレルギーについて指導している。わかりやすい掲示をされていて職員の意識の高さが感じられる。

A-1-(4) 食事 【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	第三者評価結果 a
---	--------------

<コメント>
【野菜づくり・栄養指導・子どもクッキング・食事のお手伝いと食育が充実している】
 幼児は給食時に手作りランチョンマットがあり配膳や片付けも意欲的に行っている。幼児は主食にご飯が出る日は、米を研いだり炊飯ジャーで炊くお手伝いをしていて、ご飯の炊ける匂いも感じられる環境が良い。子どもたちとメニューを決めてクッキングを行い、キッチンの職員が育てる野菜を観察し給食で食べたり、栄養士が毎月献立表を作成しその中から食材分類の指導を行うことなど様々な取り組みが行われ、子どもたちの食べる意欲や主体的に関わる姿あり高く評価される。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
--	---

<コメント>
【楽しく自分のペースで食事をする環境が作られている】
 発達に応じた形状を提供し栄養士や調理師が各部屋に行き子どもの食べる様子を見たり会話楽しみながら、キッチンの職員の関係性を深め安心感につなげている。給食日誌があり子どもの様子や残食量を把握し次への献立に生かすようにしている。給食を食べる順番は本人が食べたいものから自分のペースで食べている。嫌いなものが残っている状態で他のものをお替りしたい時は、保育士が声をかけ確認してお替りができるようにしている。空いている席に自由に座ることができる工夫をしている。

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携 【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	第三者評価結果 b
--	--------------

<コメント>
【保護と様々な方法で子どものこと・運営方針・行事などを共有し協働的な関係づくりを進めてる】
 子どもや保育の様子わかる保育参加や参観は年間を通して受け入れている。6月は新入園児の面談、10.11月は卒園を迎える5歳児の面談を行い、誕生日の園児の保育参加と個人面談も行っている。5月、11月には運営方針の共有や子どもの学びについてピノキオミーティングを行なっている。行事は保護者の参画を呼び掛け行事を盛り上げている。当日だけではなく事前のお手伝いも参加している。忙しい保護者の参画は課題もあるが、すでにどのように進めるか計画も立てている。今後の保護者が参画する活動が活発になる事を期待したい。

A-2-(2) 保護者等の支援 【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	第三者評価結果 a
--	--------------

<コメント>

【子育て中の方々がホッとできるふれあいの居場所を提供している】

忙しい保護者の相談に対しては保育者や園長、事務などがスピード感をもって対応をしている。地域の病児保育や放課後ディサービス、地域の支援会場など玄関にパンフレットを置き支援情報を知らせている。ピノキオ親子園やピノキオ食堂やピノキオカフェを行い、食堂は毎月（土曜日）の夕方、17:00～18:30 1回45分の二部制になっていて3カ月先まで予約がいっぱいの状況になっている。親子支援の様々な取り組みや職員の協働的な関わりは高く評価される。

【A19】 A-2-(2)-②
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

a

<コメント>

【保護者の心情に寄り添い早期の発見や予防に努めている】

早期発見や未然に防ぐために、日々の保護者と丁寧なやり取りを行い、子どもの様子や身体のチェック、行動変化を見ている。子どもの様子に変化が見られる場合は看護師や園長に相談をし情報共有を行い素早い対応をしている。園は保護者の心情に寄り添い相談しやすい場所になっている。現在は入所時だけでなく一時保育で受ける体制も整えている為柔軟な対応ができる点が評価される。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

【A20】 A-3-(1)-①
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

b

<コメント>

【法人の組織の取り組みををベースに実践を振り返る工夫が見られる】

個人の成長計画や3か月に1度の園長ミーティング、年度末の人事評価を行い自身の振り返りは規定に沿っている。キラっぽチェックシート（保育士の姿やかかわり方、ゾーン変更、おもちゃ等の設定等）でチームの振り返りを行い、職員休憩室にも職員が気づいたことを主体的に発信するボードを置いたりお勧め書籍を置き改善や質の向上につなげている。園長や主任を含めた対話のできる環境も気づきの共有や改善に大きな影響を与えている。